

最近の邦人被害について（2014年7月1日付）

夏が近づき、南仏観光のベストシーズンとなってきましたが、そのせいか最近当館には毎日のように邦人旅行者の方々から犯罪被害に遭った旨の連絡が入ってきています。

ここで、最近の邦人被害態様を情報共有させていただきますが、これは決して被害に遭われた方々の落ち度を責めるものではなく、同種被害の発生を今後少しでも減らす目的であることをご理解頂ければ幸いです。

（1）よくある被害態様

ア レストラン（宿泊先ホテルを含む）での置き引き被害

日本にいるときと同じ感覚で、荷物で「席取り」をしている方の被害が圧倒的に多いです。また、ホテルの朝食バイキングでの被害報告が多く、宿泊客を装った泥棒がホテル内に入り込んでいる状況が窺われます。複数で行動するときは必ず「荷物番」要員を席に残しましょう。

イ いつの間にかのスリ被害

単独犯だけでなく、一人が邦人に英語等で話し掛けている間に共犯者がすり取る形態もあります。スリは、盗みを実行する前にいわゆる「当たり行為」（ボディタッチして財布の在処を探しつつ、被害者の注意力有無を確認する行為）をして財物の所在を確認することが多いのですが、直接接触らずとも、例えば邦人が買い物の際に財布を入れた箇所を見張っている場合などもあります（その後、尾行され財布を盗まれる）ので、注意が必要です。

ウ 主にレンタカー利用者を対象とした、車上狙い被害

駐車中、外から「車内に荷物が置きっ放し状態」なのが丸見えの場合に多発しており、この場合窓ガラスを割られて車内の財物を盗まれています。

また、車を借りる際ドアロックのやり方を教えてもらわなかった方が赤信号等での一時停止中にドアを開けられて荷物を盗まれるケースも多いです。

（2）特異な被害態様

ア マルセイユ発生、駅からホテルまでの移動間における羽交い締め強盗被害

夜10時頃にサン・シャルル駅に到着した邦人旅行者男性が、駅付近にあるホテルを探している間に男数名に囲まれ、羽交い締めされて荷物を盗まれたもの。

特にマルセイユは、繁華街に隣接する形で「観光客が行くべきでないエリア（旧港エリアですと、中心街から1本入った裏道等）」が存在します。サン・シャルル駅から旧港まで近道をしようと裏道を歩き、強盗被害に遭ったケースも過去発生しましたので、特に荷物を大量に持った状態での裏道移動は絶対にしないで下さい。

イ マルセイユ発生、アラブ人街に迷い込んだ末の強盗被害

マルセイユ観光中の邦人旅行者男性が、風景写真の被写体を求めアラブ人街に入り混み、そこで男数名による挟み撃ちに遭い、ナイフで脅され貴重品を奪われたもの。

本件では男性がカメラを死守すべく抵抗して揉み合いとなった際、犯人のナイフで手を負傷する被害も負っています。この方のお話を聞き、思わず「その状態でよく助かりましたね」と口にしたのを覚えています。と言いますのも、このような状況では下手に抵抗すると致命傷を与えられることが多いからです。この時は被害男性のカメラは奪われずに済みましたが、それは犯人らにとって現金等の「他の戦利品」が彼らの欲望を十分に満たしたからに過ぎないと思われます。基本的に、犯人側は「現金は渡すから〇〇だけは勘弁してくれ」というような交渉には応じません（現金は勿論、〇〇も奪います）。逃げられない・助けを呼べない状況に陥った場合は、残念ですが貴重品のことは諦め、ご自身の身体を守ることを最優先に行動して下さい。

ウ マルセイユ空港発生、スリ被害

プロヴァンス空港のエスカレーターで移動中の男性が、前後をジプシー風の少女らに囲まれ、気付いたらリュックサック内の貴重品をすり取られていたもの。本件では男性がすぐに貴重品を盗まれたことに気付いて少女らを追いかけて返してもらった（少女らは逃走）ため、実害はなかったそうです。本件は被害者が精悍な成人男性であり、犯人が非力な少女だったから被害回復できたものと思われます。

これまで、サン・シャルル駅やニース空港と異なり市街地から離れているマルセイユ空港では置き引きやスリは発生しにくい（泥棒が行きにくい）ため）と認識されていたのですが、泥棒の行動範囲も広がったようです。一步外に出たら気を抜けるような安全な場所はない、というくらいの気持ちを持った方が良いでしょう。